

「船弁慶」を歩く

能「船弁慶」は、古くから河口港として栄えた大物浦（兵庫県尼崎市）が舞台です。阪神電車なんば線「大物駅」で下車、駅の東側を南北に走る県道339号大物線を南に下ると、徒歩5分ほどで大物主神社の横手に出ます。大物主神社の祭神は大国主命と市杵島姫命（弁才天）、神社の本殿は、海に向かって建てられています。境内には「義経弁慶隠家跡」の小さな碑があり、都を落ち延びた義経一行が投宿し、航海の安全を祈願したとされています。神社の西側の住宅街には、水路だった場所がそのまま遊歩道として利用され、今は住宅街の真ん中にある尼崎城も城跡公園として残されています。大物駅の南側一帯は大きな工場が立ち並び、現在は瀬戸内海に隣接する重工業地帯ですが、かつては海岸線が近かった事がわかります。

能「船弁慶」では、義経は愛妾静と大物浦で別れたとされていますが、実際には静と供に大物浦を出航し、嵐のために再び港へ戻され、さらに奈良県吉野山に逃れています。吉野山から先の大峯山が女人禁制で抜ける事が出来ないため、静とは吉野山で別れたようです。昨年夏に奈良県吉野山に行き、義経主従に関する謡踏めぐりをしたことで、今回の「船弁慶」の物語と史実が自分の中でうまく整理できました。また、第9回廣田鑑賞会で演じた「綾鼓」で福岡県北九州市を訪れた時には、壇ノ浦古戦場（山口県下関市）や、平知盛をはじめ平家七将が眠る赤間神社にもお参りができたので、義経、静、弁慶、知盛など、曲の中のそれぞれの想いが一つの線につながった気がいたしました。

大物浦から船を出した義経一行の足跡を辿ろうと思いましたが、フェリー等の交通手段がなく、阪神電車三宮駅からポートライナーに乗り換えて神戸空港まで行き、神戸空港から高速艇ベイシャトルで海路、関西国際空港に行く事にしました。義経の進路を横断して大阪に戻るルートです。船上からは、武庫川河口や大物浦の沖合、義経一行が目指した瀬戸内海の西の海を臨むことができます。義経は、壇ノ浦の合戦で潮流を味方にして勝利を得ることが出来たとされていますが、ここ大物浦では、潮の流れに逆らえず船出して間もなく船を港に返さざるを得なくなりました。義経主従にとっては、まさに知盛の怨霊に往く手を阻まれた想いだっただけはなかったろうか、などと波間を見ながら帰途につきました。

平成二十四年 如月吉日

廣田 幸稔



兵庫県尼崎 大物主神社
←社殿から大物浦を臨む



↑「義経弁慶隠家跡」の碑



←神戸空港 高速艇ベイシャトル
神戸空港と関西国際空港を30分で結ぶ
↓高速船から西を臨む
画面右側は本州、左側に四国が見える



↓奈良県吉野町 吉水神社
義経主従、静が身を隠した。
「義経・静の間」がある。



↑奈良県吉野町勝手神社
義経と別れた後、静が舞を舞ったとされる。